



- Link “新風”

Vol.47
(通算 第140号)

3月は卒業やお旅立ちの別れのシーズン、4月は入学や入社など出会いのシーズン。たった数週間で大きく生活が変わる時期です。

今年も、期待に満ち溢れた新しい仲間を、数年、数十年先に『入社して良かった』と思ってもらえるよう、温かく、元気に迎えましょう。



『雛祭り』

3月といえば雛祭り。(定番でスミマセン・・・)

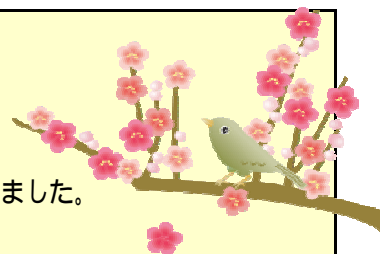
平成23年度に生まれた4人の子どもはいずれも女の子でしたので、初節句となりますね。

赤ちゃんを見てると癒されますよね

さて、どの子が誰の子か、わかりますか～？



春近し



寒い寒い冬もそろそろ終りを告げるかのように、梅の花が目立つ季節となりました。これから訪れる春を待つこの時期だからこそ、また格別な味わいがあります。

わが社は、2月に半期を終え今月から下期に入りますが、春を迎える如くわくわく感を毎年味わえるよう頑張りたいものです。下期も基本的には今年度の計画に沿って進むわけですが、目標に向かって日々の中で意識を変え、やり方を変え、明日につながる成果を出していきたいものです。

わが社のまわりを時々歩いてみるのですが、農地が徐々に埋め立てられてきたとはいえ、まだまだ結構な田圃が残っています。しかしながら、先祖代々から受け継いだ田地畑を耕作しないまでも、大事に守っていく姿勢が見られないところもあります。草木が生い茂る、ごみが捨て場の如く汚い、資材置場のようだが見るも無惨な乱雑さなどです。全く嘆かわしい限りで良好な景観を保って欲しいものです。

今、第六次産業なるものが世の中を賑わせています。農水産業の第一次産業が、第二次産業の加工、第三次産業の流通・販売と一体化したもので、即ち $1+2+3=6$ という造語であり、今村奈良臣氏が提唱したものといわれています。その後、氏は $1\times 2\times 3=6$ としたもっと総合的な結合が大事だとも言っています。静岡新聞によると「高齢化などにより農業の担い手が不足し耕作放棄地の拡大が進んでいるなか、静岡県内では農業参入企業が2011年度8月時点で2006年度の3倍以上増えているとしている。2009年の農地法改正で規制が緩和され、農業をビッグチャンスと捉える企業が増加し、その数農業生産法人が30社、その他の法人が30社」とのこと。聞くところによると、荒れ果てた休耕地は化学肥料を殆ど含んでいないので、今求められている自然農法の耕作地として最適だそうです。また、農業参入する土木工事業者が自分の得意とする技術で見ると無惨な休耕地をたちまち整地し見事な畑に変貌させるようです。わが社の回りの田地畑も、すばらしい景観に変えることもそんなに遠い将来ではないかもしれません。

六次産業で成功している事例は枚挙にいとまがなく、徳島県上勝町の葉っぱで2.5億円稼ぐおばあちゃんたち、大分県大山農協の伊賀の里モクモク手作りファーム、宮城県加美町の農家レストランなど。都会では、レストラン内で野菜を栽培しそれを食材にして人気を集めている例もあります。それらに共通するものは安全、安心を基盤とした発想の転換ではないかと思う。

閉塞感漂うなかに活路を求める農業経営の他に「新エネルギー」参入があります。太陽光発電、電気自動車、風力発電、燃料電池、蓄電池などがそれで、静岡経済研究所のアンケートによると、従業員50人以上の製造、非製造の県内318社の回答で新エネルギー関連事業に興味を持っている企業が54.1%で、既に取り組み今後も注力するが25.2%、これから取り組むが12.9%とのこと。既に取り組んでいる企業は、売上があっても利益がでる規模に至っていないが多く、十分な利益が出ている企業は4.3%であり技術力向上が鍵となるとしている。既にわが社は、リチウムイオン電池関連に取り組んでいるが、更なる技術開発とコスト低減をすすめる市場に受け入れられる姿勢を貫いていかなくてはなりません。

この4月に新しい仲間が入社する予定です。技術系3名、営業1名、総務・経理で1名です。就職難のこの時代は、わが社にとっては良い人材に入社していただくチャンスでもあります。積極的な雇用によって、会社は更に変化をしてゆかなければなりません。新しい息吹に大いに期待するところでありますし、我々先輩諸氏の真摯な共育が欠かせません。

世の中の変化のスピードはまことに速いものです。

乗り遅れないように！ とともに頑張りましょう！



3.11を忘れない!!!

社長 赤堀肇紀